



gNMI プロトコル

この機能では、gRPC ネットワーク管理インターフェイス (gNMI) の機能を使用したモデル駆動型の設定と運用データの取得、およびリモートプロシージャコール (RPC) の取得と設定について説明します。gNMI バージョン 0.4.0 がサポートされています。

- [gNMI プロトコルの制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [gNMI プロトコルの概要 \(2 ページ\)](#)
- [gNMI プロトコルを有効にする方法 \(15 ページ\)](#)
- [gNMI プロトコルの設定例 \(21 ページ\)](#)
- [gNMI プロトコルの関連資料 \(22 ページ\)](#)
- [gNMI プロトコルの機能情報 \(23 ページ\)](#)

gNMI プロトコルの制約事項

機能には、次のような制約事項が適用されます。

- Subscribe RPC サービスはサポートされていません。
- JSON、BYTES、PROTO、および ASCII エンコーディング オプションはサポートされていません。

JSON IETF キーには、次の要素の名前空間が親とは異なる YANG プレフィックスが含まれている必要があります。たとえば、`openconfig-vlan.yang` の拡張から派生した `routed-vlan` は、親ノードの名前空間とは異なるため (親ノードはプレフィックス `oc-if` を持ちます)、`oc-vlan:routed-vlan` と入力する必要があります。

- **GetRequest :**
 - 運用データのフィルタリングはサポートされていません。
 - モデルの使用はサポートされていません。これらは、Get RPC コールへの応答として返す必要があるデータ要素を定義するスキーマ定義モジュールを示す一連のモデルデータ メッセージです。
- **GetResponse :**

- エイリアスはサポートされていません。これは、通知メッセージの中で指定されたプレフィックスのエイリアスを提供する文字列です。
- 削除はサポートされていません。これは、データ ツリーから削除する一連のパスです。

gNMI プロトコルの概要

gNMI について

gNMI は Google によって開発された gRPC ネットワーク管理インターフェイスです。gNMI はネットワークデバイスの設定をインストール、操作、および削除し、また、運用データの表示も実行するメカニズムです。gNMI を通じて提供されるコンテンツは YANG を使用してモデル化できます。

gRPC は、クラウドサーバと通信するモバイルクライアントを使用して低遅延で拡張可能な配布を実現するために Google によって開発されたリモート プロシージャ コールです。gRPC は gNMI を伝送し、データと動作要求を公式化して送信する手段を提供します。

gNMI サービスの障害が発生した場合、gNMI ブローカ (GNMIB) によって、up から down への動作状態の変化が示され、データベースが起動して実行されるまではすべての RPC がサービス利用不可のメッセージを返します。リカバリ時には、GNMIB によって down から up への動作状態の変化が示され、RPC の通常の処理が再開されます。

YANG データ ツリーの JSON IETF エンコーディング

RFC 7951 では、YANG データツリーとそのサブツリーの JavaScript オブジェクト表記 (JSON) エンコーディングが規定されています。gNMI は、コンテンツ層でのデータのエンコードに JSON を使用します。

JSON タイプは、値が JSON 文字列としてエンコードされていることを示します。JSON_IETF でエンコードされたデータは、RFC 7951 で規定されている JSON シリアル化のルールに準拠している必要があります。クライアントとターゲットの両方が JSON エンコーディングをサポートしている必要があります。

YANG データ ノード (リーフ、コンテナ、リーフリスト、リスト、anydata ノード、および anyxml ノード) のインスタンスは、JSON オブジェクトまたは名前と値のペアのメンバーとしてエンコードされます。エンコーディング ルールは、設定データ、状態データ、RPC 操作のパラメータ、アクション、通知など、すべてのタイプのデータ ツリーで同じです。

データ ノード インスタンスはすべて名前と値のペアとしてエンコードされ、その名前はデータ ノード識別子から形成されます。値は、データ ノードのカテゴリによって異なります。

「リーフ」データノード

リーフノードは、データツリー内に値がありますが子はありません。リーフインスタンスは、名前と値のペアとしてエンコードされます。この値には、リーフのタイプに応じて、文字列、数値、リテラル「true」または「false」、または特殊な配列「[null]」を使用できます。指定されたパスのデータ項目がリーフノードの場合（子が存在せず、関連付けられた値を持つ）、そのリーフの値が直接エンコードされます（そのままの JSON 値が含まれています。JSON オブジェクトは必要ありません）。

次に、リーフノード定義の例を示します。

```
leaf foo {  
  type uint8;  
}
```

次に、JSON でエンコードされた有効なインスタンスを示します。

```
"foo": 123
```

gNMI GET Request

gNMI Get RPC は、データツリーから、1 つ以上の設定属性、状態属性、派生状態属性、またはサポートされているモードに関連付けられたすべての属性を取得する方法を指定します。データツリーから値を取得するために、GetRequest がクライアントからターゲットに送信されます。GetRequest への応答として GetResponse が送信されます。

表 1: *GetRequest* の JSON 構造

GetRequest	GetResponse
<pre>The following is a path for the openconfig-interfaces model +++++++ Sending get request: ++++++ path { elem { name: "interfaces" } elem { name: "interface" key { key: "name" value: "Loopback111" } } }</pre>	

GetRequest	GetResponse
	<pre> encoding: JSON_IETF +++++++ Received get response: ++++++ notification { timestamp: 1521699434792345469 update { path { elem { name: "interfaces" } elem { name: "interface" key { key: "name" value: "\"Loopback111\"" } } } val { json_ietf_val: "{\n\t\"openconfig-interfaces:name\":\t\ \"Loopback111\", \n\t\ \"openconfig-interfaces:config\":\t{\n\t\t\ \"openconfig-interfaces:type\":\t\"ianaift: softwareLoopback\", \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:name\":\t\"Loopback111\", \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:enabled\":\t\"true\"\n\t), \n\t\ \"openconfig-interfaces:state\":\t{\n\t\t\ \"openconfig-interfaces:type\":\t\"ianaift: softwareLoopback\", \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:name\":\t\"Loopback111\", \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:enabled\":\t\"true\", \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:ifindex\":\t52, \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:admin-status\":\t\"UP\", \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:oper-status\":\t\"UP\", \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:last-change\":\t2018, \n\t\t\ \"openconfig-interfaces:counters\":\t{\n\t\t\t\t\ </pre>

GetRequest	GetResponse
	<pre> "openconfig-interfaces:state":\t{\n\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:index":\t0,\n\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:name":\t"Loopback111.0",\n\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:enabled":\t"true",\n\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:admin-status":\t"UP",\n\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:oper-status":\t"UP",\n\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:last-change":\t2018,\n\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:counters":\t{\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:in-octets":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:in-unicast-pkts":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:in-broadcast-pkts":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:in-multicast-pkts":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:in-discards":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:in-errors":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:out-octets":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:out-unicast-pkts":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:out-broadcast-pkts":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:out-multicast-pkts":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:out-discards":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t "openconfig-interfaces:out-errors":\t0,\n\t\t\t\t\t\t\t </pre>

SetRequest は JSON キーもサポートしており、キーには YANG プレフィックスが含まれている必要があります。このプレフィックスでは次の要素の名前空間が親とは異なります。

たとえば、`openconfig-vlan.yang` の拡張から派生した `routed-vlan` は、親ノードの名前空間とは異なるため（親ノードのプレフィックスは `oc-if`）、`oc-vlan:routed-vlan` と入力する必要があります。

1 つの SetRequest に含まれる削除、置換、および更新は、全体で 1 つのトランザクションセットとして扱われます。トランザクションのいずれかの下位要素で障害が発生した場合は、トランザクション全体が拒否されてロールバックされます。SetRequest に対して SetResponse が返信されます。

表 3: SetRequest の JSON 構造の例

SetRequest	SetResponse
<pre>+++++++ Sending set request: ++++++ update { path { elem { name: "interfaces" } elem { name: "interface" key { key: "name" value: "Loopback111" } } elem { name: "config" } } val { json_ietf_val: "{\"openconfig-interfaces:enabled\":\"false\"}" } }</pre>	<pre>+++++++ Received set response: ++++++ response { path { elem { name: "interfaces" } elem { name: "interface" key { key: "name" value: "Loopback111" } } elem { name: "config" } } op: UPDATE } timestamp: 1521699342123890045</pre>

表 4: リーフ値での *SetRequest* の例

SetRequest	SetResponse
<pre>+++++++ Sending set request: ++++++++ update { path { elem { name: "interfaces" } elem { name: "interface" key { key: "name" value: "Loopback111" } } elem { name: "config" } elem { name: "description" } } val { json_ietf_val: "\"UPDATE DESCRIPTION\"" } }</pre>	<pre>+++++++ Received set response: ++++++++ response { path { elem { name: "interfaces" } elem { name: "interface" key { key: "name" value: "Loopback111" } } elem { name: "config" } elem { name: "description" } } op: UPDATE timestamp: 1521699342123890045</pre>

gNMI の名前空間

名前空間は、メッセージの `origin` フィールドで使用されるパスプレフィックスを指定します。

ここでは、Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 以降のリリースで使用される名前空間について説明します。

- RFC 7951 で指定された名前空間：パスプレフィックスは、RFC 7951 で定義されている YANG モジュール名を使用します。

RFC 7951 で指定された値のプレフィックスは、YANG モジュール名を使用します。

値のプレフィックスは、選択されたパスプレフィックスの名前空間の影響を受けません。

次に、RFC 7951 で指定された値のプレフィックスの例を示します。

```
val {
  json_ietf_val: "{
    \"openconfig-interfaces:config\": {
      \"openconfig-interfaces:description\":
        \"DESCRIPTION\"
    }
  }"
```

RFC 7951 で指定された名前空間プレフィックスは、YANG モジュール名も使用します。たとえば、ループバック インターフェイスへの `openconfig` パスは次のようになります。

```
/openconfig-interfaces:interfaces/interface[name=Loopback111]/
```

次の例は、RFC 7951 の名前空間指定を使用した gNMI パスを示しています。

```
path {
  origin: "rfc7951"
  elem {
    name: "openconfig-interface:interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
    key {
      key: "name"
      value: "Loopback111"
    }
  }
}
```

- **openconfig** : パスプレフィックスを使用しません。これらは openconfig モデルへのパスでのみ使用できます。

openconfig 名前空間プレフィックスの動作は、発信元または名前空間が指定されていない場合と同じです。たとえば、ループバックインターフェイスへの openconfig パスは次のようになります。

```
/interfaces/interface[name=Loopback111]/
```

次の例は、openconfig 名前空間指定を使用した gNMI パスを示しています。

```
path {
  origin: "openconfig"
  elem {
    name: "interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
    key {
      key: "name"
      value: "Loopback111"
    }
  }
}
```

- **空** : openconfig プレフィックスと同じです。これがデフォルトです。

次の例は、空の openconfig 名前空間指定を使用した gNMI パスを示しています。

```
path {
  elem {
    name: "interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
    key {
      key: "name"
      value: "Loopback111"
    }
  }
}
```

ここでは、Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 より前のリリースで使用されるパスプレフィックスについて説明します。

ここでは、パスプレフィックスは、YANG モジュール定義で定義されている YANG モジュールプレフィックスを使用します。たとえば、ループバック インターフェイスへの `openconfig` パスは次のようになります。

```
/oc-if:interfaces/interface[name=Loopback111]/
```

次の例は、従来の名前空間指定を使用した gNMI パスを示しています。

```
path {
  origin: "legacy"
  elem {
    name: "oc-if:interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
    key {
      key: "name"
      value: "Loopback111"
    }
  }
}
```

gNMI のワイルドカード

gNMI プロトコルは、Get パスのワイルドカードをサポートしています。これは、複数の要素を一致させるためにパス内でワイルドカードを使用する機能です。これらのワイルドカードは、スキーマ内の指定されたサブツリーにあるすべての要素を示します。

`elem` は要素であり、`xpath` 内の `/` 文字の間の値です。 `elem` は gNMI パスでも使用できます。たとえば、`elem` 名を基準とするワイルドカードの位置は、ワイルドカードがインターフェイスを表し、すべてのインターフェイスとして解釈されることを暗に意味します。

ワイルドカードには暗黙的と明示的の2つのタイプがあり、どちらもサポートされています。Get パスは、パス ワイルドカードのすべてのタイプと組み合わせをサポートします。

- 暗黙的なワイルドカード：これらは、要素ツリー内の要素のリストを展開します。暗黙的なワイルドカードは、リストの要素にキー値が指定されていない場合に出現します。

次に、パスの暗黙的なワイルドカードの例を示します。このワイルドカードは、デバイスにあるすべてのインターフェイスの説明を返します。

```
path {
  elem {
    name: "interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
  }
  elem {
    name: "config"
  }
  elem {
    name: "description"
  }
}
```

- 明示的なワイルドカード：下記の指定によって同じ機能を提供します。

- パス要素名またはキー名のいずれかにアスタリスク (*) を指定します。

次に、パスのアスタリスクワイルドカードをキー名として使用する例を示します。このワイルドカードは、デバイスにあるすべてのインターフェイスの説明を返します。

```
path {
  elem {
    name: "interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
    key {
      key: "name"
      value: "*"
    }
  }
  elem {
    name: "config"
  }
  elem {
    name: "description"
  }
}
```

次に、パスのアスタリスクワイルドカードをパス名として使用する例を示します。このワイルドカードは、Loopback111 インターフェイスで使用可能なすべての要素の説明を返します。

```
path {
  elem {
    name: "interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
    key {
      key: "name"
      value: "Loopback111"
    }
  }
  elem {
    name: "*"
  }
  elem {
    name: "description"
  }
}
```

- 要素名として省略記号 (...) または空のエントリを指定します。これらのワイルドカードは、パス内の複数の要素に展開できます。

次に、パスの省略記号ワイルドカードの例を示します。このワイルドカードは、/interfaces 配下で使用可能なすべての説明フィールドを返します。

```
path {
  elem {
    name: "interfaces"
  }
  elem {
    name: "..."
  }
  elem {
    name: "description"
  }
}
```

```
    }
  }
}
```

次に、暗黙的なワイルドカードを使用した `GetRequest` の例を示します。この `GetRequest` は、デバイスにあるすべてのインターフェイスの `oper-status` を返します。

```
path {
  elem {
    name: "interfaces"
  }
  elem {
    name: "interface"
  }
  elem {
    name: "state"
  }
  elem {
    name: "oper-status"
  }
},
type: 0,
encoding: 4
```

次に、暗黙的なワイルドカードを使用した `GetResponse` の例を示します。

```
notification {
  timestamp: 1520627877608777450
  update {
    path {
      elem {
        name: "interfaces"
      }
      elem {
        name: "interface"
        key {
          key: "name"
          value: "\"FortyGigabitEthernet1/1/1\""
        }
      }
      elem {
        name: "state"
      }
    }
    elem {
      name: "oper-status"
    }
  }
  val {
    json_ietf_val: "\"LOWER_LAYER_DOWN\""
  }
},
<snip>
...
</snip>
update {
  path {
    elem {
      name: "interfaces"
    }
  }
}
```

```
    elem {
      name: "interface"
      key {
        key: "name"
        value: "\"Vlan1\""
      }
    }
    elem {
      name: "state"
    }
    elem {
      name: "oper-status"
    }
  }
  val {
    json_ietf_val: "\"DOWN\""
  }
}
```

gNMI のエラー メッセージ

エラーが発生すると、gNMI は説明的なエラー メッセージを返します。次のセクションでは gNMI エラー メッセージをいくつか示します。

次に、パスが無効な場合に表示されるエラー メッセージの例を示します。

```
gNMI Error Response:
<_Rendezvous of RPC that terminated with (StatusCode.TERMINATED,
  An error occurred while parsing provided xpath: unknown tag:
  "someinvalidxpath" Additional information: badly formatted or nonexistent path)>
```

次に、非実装エラーが発生した場合に表示されるエラー メッセージの例を示します。

```
gNMI Error Response:
<_Rendezvous of RPC that terminated with (StatusCode.UNIMPLEMENTED,
  Requested encoding "ASCII" not supported)>
```

次に、データ要素が空の場合に表示されるエラー メッセージの例を示します。

```
gNMI Error Response:
<_Rendezvous of RPC that terminated with (StatusCode.NOT_FOUND,
  Empty set returned for path "/oc-if:interfaces/noinfohere">
```

gNMI プロトコルを有効にする方法

gNMI プロトコル を有効にするには、次の手順を実行します。

1. gNMI クライアントと、認証局 (CA) によって署名されたデバイス用に一連の証明書を作成します。
 1. Linux で OpenSSL を使用して証明書を作成します。

2. デバイスに証明書をインストールします。
 3. デバイスで gNMI を設定します。
 4. gNMI が有効になっていて実行されているかどうかを確認します。
2. 前の手順で設定したクライアント証明書とルート証明書を使用して gNMI クライアントを接続します。

Linux での OpenSSL を使用した証明書の作成

証明書とトラストポイントは、セキュア gNMI サーバにのみ必要です。

次に、Linux マシン上で OpenSSL を使用して証明書を作成する例を示します。

```
# Setting up a CA
openssl genrsa -out rootCA.key 2048
openssl req -subj /C=/ST=/L=/O=/CN=rootCA -x509 -new -nodes -key rootCA.key -sha256 -out
  rootCA.pem

# Setting up device cert and key
openssl genrsa -out device.key 2048
openssl req -subj /C=/ST=/L=/O=/CN=<hostnameFQDN> -new -key device.key -out device.csr
openssl x509 -req -in device.csr -CA rootCA.pem -CAkey rootCA.key -CAcreateserial -out
  device.crt -sha256
# Encrypt device key - needed for input to IOS
openssl rsa -des3 -in device.key -out device.des3.key -passout pass:<password - remember
  this for later>

# Setting up client cert and key
openssl genrsa -out client.key 2048
openssl req -subj /C=/ST=/L=/O=/CN=gnmi_client -new -key client.key -out client.csr
openssl x509 -req -in client.csr -CA rootCA.pem -CAkey rootCA.key -CAcreateserial -out
  client.crt -sha256
```

デバイスへの証明書のインストール

次の例は、デバイスに証明書をインストールする方法を示しています。

```
# Send:
Device# configure terminal
Device(config)# crypto pki import trustpoint1 pem terminal password password1

# Receive:
% Enter PEM-formatted CA certificate.
% End with a blank line or "quit" on a line by itself.

# Send:
# Contents of rootCA.pem, followed by newline + 'quit' + newline:
-----BEGIN CERTIFICATE-----
<snip>
-----END CERTIFICATE-----
quit

# Receive:
% Enter PEM-formatted encrypted private General Purpose key.
```



```
% End with "quit" on a line by itself.

# Send:
# Contents of device.des3.key, followed by newline + 'quit' + newline:
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
Proc-Type: 4,ENCRYPTED
DEK-Info: DES-EDE3-CBC,D954FF9E43F1BA20
<snip>
-----END RSA PRIVATE KEY-----
quit

# Receive:
% Enter PEM-formatted General Purpose certificate.
% End with a blank line or "quit" on a line by itself.

# Send:
# Contents of device.crt, followed by newline + 'quit' + newline:
-----BEGIN CERTIFICATE-----
<snip>
-----END CERTIFICATE-----
quit

# Receive:
% PEM files import succeeded.
Device(config)#

# Send:
Device(config)# crypto pki trustpoint trustpoint1
Device(ca-trustpoint)# revocation-check none
Device(ca-trustpoint)# end
Device#
```

非セキュアモードでの gNMI の有効化



(注) このタスクは、Cisco IOS XE Fuji 16.8.1 ~ Amsterdam 17.2.x に適用されます。

[Day Zero setup] で、最初にデバイスを非セキュアモードで有効にしてから、デバイスを無効にし、セキュアモードを有効にします。非セキュアモードで gNMI を停止するには、**no gnmi-yang server** コマンドを使用します。



(注) gNMI 非セキュア サーバとセキュア サーバは同時に実行できます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **gnmi-yang**
4. **gnmi-yang server**
5. **gnmi-yang port port-number**
6. **end**

7. show gnmi-yang state

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	gnmi-yang 例： Device(config)# gnmi-yang	gNMI プロセスを開始します。
ステップ 4	gnmi-yang server 例： Device(config)# gnmi-yang server	gNMI サーバを非セキュア モードで有効にします。
ステップ 5	gnmi-yang port port-number 例： (Optional) Device(config)# gnmi-yang port 50000	リッスンする gNMI ポートを設定します。 • デフォルトの非セキュア gNMI ポートは 9339 です。
ステップ 6	end 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	show gnmi-yang state 例： Device# show gnmi-yang state	gNMI サーバのステータスを表示します。

例

次に、**show gnmi-yang state** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show gnmi-yang state

State Status
-----
Enabled Up
```

セキュアモードでの gNMI の有効化



(注) このタスクは、Cisco IOS XE Fuji 16.8.1 ~ Amsterdam 17.2.x に適用されます。

セキュアモードで gNMI を停止するには、**no gnmi-yang secure-server** コマンドを使用します。



(注) gNMI 非セキュアサーバとセキュアサーバは同時に実行できます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **gnmi-yang**
4. **gnmi-yang secure-server**
5. **gnmi-yang secure-trustpoint** *trustpoint-name*
6. **gnmi-yang secure-client-auth**
7. **gnmi-yang secure-port**
8. **end**
9. **show gnmi-yang state**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	gnmi-yang 例： Device(config)# gnmi-yang	gNMI プロセスを開始します。
ステップ 4	gnmi-yang secure-server 例： Device(config)# gnmi-yang secure-server	gNMI サーバをセキュアモードで有効にします。
ステップ 5	gnmi-yang secure-trustpoint <i>trustpoint-name</i> 例：	gNMI が認証に使用するトラストポイントと証明書セットを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# gnmi-yang secure-trustpoint trustpoint1	
ステップ 6	gnmi-yang secure-client-auth 例： Device(config)# gnmi-yang secure-client-auth	(任意) gNMI プロセスは、ルート証明書と照合してクライアント証明書を認証します。
ステップ 7	gnmi-yang secure-port 例： Device(config)# gnmi-yang secure-port	(任意) リッスンする gNMI ポートを設定します。 • デフォルトの非セキュア gNMI ポートは 9339 です。
ステップ 8	end 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	show gnmi-yang state 例： Device# show gnmi-yang state	gNMI サーバのステータスを表示します。

例

次に、**show gnmi-yang state** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show gnmi-yang state

State Status
-----
Enabled Up
```

gNMI クライアントの接続

以前に設定したクライアント証明書とルート証明書を使用して gNMI クライアントが接続されます。

次に、Python を使用して gNMI クライアントを接続する例を示します。

```
# gRPC Must be compiled in local dir under path below:
>>> import sys
>>> sys.path.insert(0, "reference/rpc/gnmi/")
>>> import grpc
>>> import gnmi_pb2
>>> import gnmi_pb2_grpc
>>> gnmi_dir = '/path/to/where/openssl/creds/were/generated/'

# Certs must be read in as bytes
>>> with open(gnmi_dir + 'rootCA.pem', 'rb') as f:
```

```
>>> ca_cert = f.read()
>>> with open(gnmi_dir + 'client.crt', 'rb') as f:
>>>     client_cert = f.read()
>>> with open(gnmi_dir + 'client.key', 'rb') as f:
>>>     client_key = f.read()

# Create credentials object
>>> credentials = grpc.ssl_channel_credentials(root_certificates=ca_cert,
private_key=client_key, certificate_chain=client_cert)

# Create a secure channel:
# Default port is 50052, can be changed on ios device with 'gnmi-yang secure-port ####'
>>> port = 50052
>>> host = <HOSTNAME FQDN>
>>> secure_channel = grpc.secure_channel("%s:%d" % (host, port), credentials)

# Create secure stub:
>>> secure_stub = gnmi_pb2_grpc.gNMISub(stub=secure_channel)

# Done! Let's test to make sure it works:
>>> secure_stub.Capabilities(gnmi_pb2.CapabilityRequest())
supported_models {
<snip>
}
supported_encodings: <snip>
gNMI_version: "0.4.0"
```

gNMI プロトコルの設定例

例 : gNMI プロトコルの有効化



(注) この例は、Cisco IOS XE Fuji 16.8.1 ~ Amsterdam 17.2.x に適用されます。

例 : 非セキュア モードでの gNMI の有効化

次に、gNMI サーバを非セキュア モードで有効にする例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# gnmi-yang
Device(config)# gnmi-yang server
Device(config)# gnmi-yang port 50000 <The default port is 9339.>
Device(config)# end
Device#
```

例 : セキュア モードでの gNMI の有効化

次に、gNMI サーバをセキュア モードで有効にする例を示します。

```

Device# configure terminal
Device(config)# gnmi-yang server
Device(config)# gnmi-yang secure-server
Device(config)# gnmi-yang secure-trustpoint trustpoint1
Device(config)# gnmi-yang secure-client-auth
Device(config)# gnmi-yang secure-port 50001 <The default port is 9339.>
Device(config)# end
Device#

```

gNMI プロトコルの関連資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
DevNet	https://developer.cisco.com/site/ios-xe/
gNMI	https://github.com/openconfig/reference/blob/master/rpc/gnmi/gnmi-specification.md
gNMI パス エンコーディング	https://github.com/openconfig/reference/blob/master/rpc/gnmi/gnmi-path-conventions.md

標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 7951	YANG でモデル化されたデータの JSON エンコーディング

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	http://www.cisco.com/support

gNMI プロトコルの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 5: gNMI プロトコルの機能情報

機能名	リリース	機能情報
gNMI プロトコル	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	この機能では、gNMI の機能と GET および SET RPC を使用したモデル駆動型の設定と運用データの取得について説明します。 この機能は、次のプラットフォームに実装されていました。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Catalyst 9300 シリーズ スイッチ • Cisco Catalyst 9400 シリーズ スイッチ • Cisco Catalyst 9500 シリーズ スイッチ
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 では、この機能は Cisco Catalyst 9500 ハイパフォーマンス シリーズ スイッチに実装されていました。
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1 では、この機能は Cisco Catalyst 9600 シリーズ スイッチに実装されていました。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。